

農作物技術情報 第3号の要約

平成21年 5月28日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作 目	技 術 の 要 約
水 稲	好天時は浅水管理で水温・地温を高めて分げつの発生を促進しましょう。 目標とする茎数を確保したら、すみやかに中干しを実施しましょう。 水田除草剤は適期に十分な湛水深で処理しましょう。 補植用取置苗はいもち病が発生しやすいので、圃場内に放置せず直ちに処分しましょう。 斑点米カメムシ類の孵化盛期に合わせて地域一斉の草刈りを実施しましょう。 異品種の混入を防止するため、株間や条間に生育しているイネは抜き取りましょう。
畑作物	小麦: 赤かび病の防除は品種や天候によって、2回目、3回目の防除が必要になります。適期を逃さず実施しましょう。収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制で臨みましょう。 大豆: 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行い、土壌条件を整えましょう。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保しましょう。
野 菜	ハウス果菜類: 生育、収穫量の増加に応じて、作業を早めに行いましょう。 露地果菜類: 土壌水分と地温の確保により円滑な活着を促しましょう。 雨よけほうれんそう: ハウスの温度、湿度管理を適切に行い、高温や過湿による病害発生や生育不良を防ぎましょう。 露地葉菜類: 害虫の発生が早まっています。圃場を注意して観察し、早期に防除しましょう。
花 き	りんどう: 土壌水分管理、雑草防除を適正に行いましょう。 小ぎく: 定植、整枝などの作業を計画的に行いましょう。 トルコギキョウ: 生育初期の水分・温度管理を適切に行いましょう。
果 樹	りんご: 全般に結実量が多くなると考えられますので、摘果作業を計画的に進め、高品質果実生産と隔年結果防止を図りましょう。 ぶどう: 開花期前後の栽培管理を計画的に進め、灰色かび病等の防除を徹底して結実確保に努めましょう。
畜 産	牧草: 1番草は年間を通じて、質・量ともに年間を通じて最高・最大の収穫を期待できるため、この時期の収穫作業は重要です。増収を期待した遅刈りは、栄養価や刈取り後の生育に悪影響を及ぼします。適期刈り取りに努めましょう。
共 通	農薬の使用基準を守りましょう。 農薬の飛散防止に努めましょう。 農作業の安全に十分留意してください。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 水稻

発行日 平成21年 5月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

好天時は浅水管理で水温・地温を高めて分けつの発生を促進しましょう。

目標とする茎数を確保したら、すみやかに中干しを実施しましょう。

水田除草剤は適期に十分な湛水深で処理しましょう。

補植用取置苗はいもち病が発生しやすいので、圃場内に放置せず直ちに処分しましょう。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の孵化盛期に合わせて地域一斉の草刈りを実施しましょう。

異品種の混入を防止するため、株間や条間に生育しているイネは抜き取りましょう。

農薬使用基準の厳守と飛散防止、農作業の安全に十分留意してください。

1 生育概況

本年の育苗期間は全般に高温・多照に経過したこともあり、やや徒長気味の苗となりましたが、大きな障害もなく、苗質(充実度)はほぼ平年並みとなりました。

田植えは、各地で平年並みに盛期(50%終了)となり、概ね適期内に終了しました。

田植え後も好天に恵まれ、活着も良好であったことから、水稻の生育は順調に進んでいます。

表1 生育診断予察圃における苗質(各農業改良普及センター調べ)

地帯名	草丈			葉数			充実度(100個体風乾重/草丈)		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (葉)	平年 (葉)	平年差 (葉)	本年 (g/cm)	平年 (g/cm)	平年比 (%)
北上川上流	14.7	14.5	0.2	3.1	3.1	0.0	0.14	0.14	100
北上川下流	15.2	14.9	0.3	3.1	2.9	0.2	0.14	0.14	100
東 南 部	16.2	12.1	4.1	2.7	2.9	-0.2	0.12	0.16	67
北 部	12.0	14.7	-2.7	2.6	3.4	-0.8	0.18	0.18	100
県 全 体	15.2	14.4	0.8	3.0	3.0	0.0	0.14	0.14	100

注)1, 本年値は全てのデータの平均、平年値および平年差(比)は平年値があるデータのみ

2, 平年値は原則として10か年(平成11~20年)の平均値

表2 県内農業地帯別田植状況(各農業改良普及センター調べ)

地帯名	本年(月/日)			平年(月/日)			平年差(日)			前年(月/日)		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	5/14	5/20	5/25	5/14	5/17	5/22	0	3	3	5/14	5/18	5/23
北上川下流	5/8	5/12	5/19	5/9	5/12	5/17	-1	0	2	5/9	5/12	5/19
東 部	5/9	5/14	5/20	5/9	5/14	5/19	0	0	1	5/9	5/14	5/18
北 部	5/19	5/23	5/28	5/17	5/21	5/25	2	2	3	5/18	5/23	5/26
県 全 体	5/10	5/15	5/21	5/10	5/14	5/19	0	1	2	5/10	5/14	5/20

注)1, 平年値は10か年(平成11~20年)の平均値

2, 始期:10%終了、盛期:50%終了、終期:90%終了

2 水管理（分けつの促進と中干しの実施）

仙台管区気象台の3か月予報によれば（5月25日発表）、6月の気温は高い確率が30%で曇りや雨の日が多い見込みです。

好天時は浅水管理で分けつの発生を促進してください。

また、目標茎数を確保したら、中干しを実施してください。

（1）分けつの促進

好天時は浅水とし、かけ流しをさけて水田水温や地温を高めて分けつの発生を促進してください。

一方、最高気温が15以下となるような低温時には、葉先が出る程度の深水として水稻を低温から保護してください。特に、県北部など田植えを終えて間もないところでは、水稻の活着・初期生育を促すよう、きめ細かな水管理につとめてください。

冷水のかかる水田では、ポリチューブなどを利用し、積極的に水温の上昇をはかりましょう。

生わら施用田では、気温の上昇とともに土中のわらが分解し、酸素不足となります。この対策として雑草防除をかねて中耕し、ガス抜きします。また、水持ちの良い水田では一時落水し、新しい水を入れ換えて分解過程生成物を除去する方法もあります。

（2）中干しの実施

目標とする茎数（目標とする穂数とほぼ同数）を確保したあとは、以下により中干しを実施しましょう。中干しを行うことにより、土壤の還元化を和らげ、根の伸長促進と健全化をはかるとともに、無効分けつの発生を抑制します。

ア 中干しの期間はおよそ7～10日くらいとし、田面に小さな亀裂が生じ田面を軽く踏んで足跡がつく程度を目安に行う。

イ かん排水を容易にするため、中干しと同時に作溝を行うのが望ましい。

ウ 中干し後、一度に深水にすると酸素欠乏になり根に障害が出ることがあるので、中干し直後は間断かんがいとし、その後常時湛水とする。その後は異常低温でない限り、幼穂形成期までは間断かんがいとす。

3 効果的な除草剤の使用

ノビエやホタルイなどの水田雑草はほぼ平年並みに発生が始まっています。

これから除草剤の散布を行うところでは、除草剤の効果を十分に発揮させるため、以下の点に留意して下さい。

（1）適期処理：雑草の葉齢を見極め、適期に処理すること。

（2）水管理：処理後3～4日間は水の移動をしないこと（止水期間は1週間程度）、この間に田面が露出しないことが重要となる。そのため、十分な湛水深を確保した上で処理すること。

（3）使用する農薬のラベルを必ず確認して、使用基準を遵守すること。



写真1 2葉期のノビエ

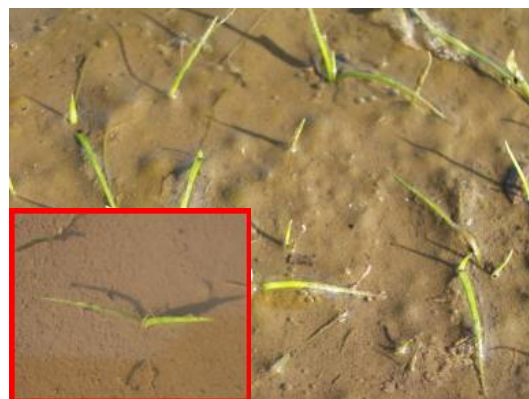


写真2 2葉期のホタルイ

（通常の初中期一発処理剤はこの頃までに処理すれば十分な効果が得られます。）

4 病害虫防除対策

(1) 葉いもち（補植用取置苗の早期処分の徹底）

補植用の取置き苗はいもち病の伝染源となります。圃場内に放置している場合には、遅くとも6月上旬までに必ず処分してください。

畦畔にあげておいたままのものや、裏返しにされた苗でも条件によっては伝染源となり得るので、必ず土の中に埋め込むなどして処分してください。

処分する時によく観察していもち病が発病していないか確認し、発病していた場合は周囲の本田に伝染していないか注意してください。

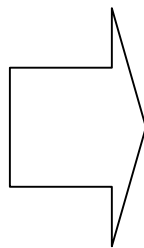
葉いもち予防剤の施用時期は6月20日～25日が適期です。例年、葉いもちが早期に発生する地域ではこれより7日程度早めに施用しましょう。

なお、ストロビルリン系薬剤（嵐剤、オリブライト剤）は耐性菌の発生リスクが高いため、嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤を本田で使用しないでください。

葉いもち予防剤を施用する前や、箱施用剤を使用した場合も圃場をよく観察して、発生が見られた場合には、茎葉散布を検討してください。



取置苗を放置すると



いもち病の伝染源となる

写真3 補植用取置苗はいもち病の伝染源

(2) ばか苗病

県中南部を中心に育苗期に広く発生がみられています。発生がみられた場合には、株ごと抜き取って処分してください。特に、水稻の採種圃周辺の圃場でばか苗病が発生すると、採種圃の水稻に感染する恐れがありますので注意してください。

(3) 斑点米カメムシ対策（発生源対策）

斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などを吸汁して繁殖します。水稻が出穂する前は、これらの植物が生育している畦畔や休耕田等で増殖しますので、カメムシ類の増殖を防ぐため、発生源となる畦畔や休耕田等のイネ科牧草・雑草は出穂開花する前に刈り取ることが重要となります。

アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵の孵化盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的であることが明らかとなっています（県農業研究センター平成19年度研究成果）。

アカスジカスミカメにより斑点米の被害が問題となっている地域では、越冬卵の孵化盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを地域一斉に実施してください。

なお、県内各地のアカスジカスミカメ越冬世代幼虫の孵化盛期については、県病害虫防除所発行の病害虫発生予察情報 発生予報 第3号（平成21年5月27日発行）を参考にしてください。



写真4 畦畔に群生するイタリアンライグラス
（イタリアンライグラスはカメムシの増殖源となる）



写真5 斑点米の発生原因となる
アカスジカスミカメ

5 異品種の混入防止

現在、全国的に異品種の混入が問題となっており、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができるような技術が開発されています。

異品種が混入した米を出荷すると、産地のイメージを損ねることになります。

株間や条間などに生育している素性のはっきりしないような水稻があった場合には、抜き取るなどして異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

6 農薬の安全使用

一昨年より、ポジティブリスト制が施行され、残留農薬基準の規制が強化されました。基準値を超えた農薬が残留した農作物の流通は禁止されます。これまで以上に周辺作物へのドリフト（農薬飛散）に注意しましょう。

春の農作業安全月間実施中！

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月26日（金）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第3号 畑作物

発行日 平成21年 5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

**小麦：赤かび病の防除は品種や天候によって、2回目、3回目の防除が必要になります。適期を逃さず実施しましょう。
収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制で臨みましょう。**

**大豆：排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行い、土壌条件を整えましょう。
種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保しましょう。**

1 小麦

(1) 赤かび病の防除

赤かび病の薬剤防除は、品種や天候によって2回目、3回目の散布が必要になります。ア「赤かび病防除の考え方」を参考に防除を行いましょう。

ア 赤かび病防除の考え方

品種	開花期 (1回目散布)	1回目散布の 7~10日後	2回目散布の 7~10日後
ナンブコムギ	(必須)	(曇雨天続く時)	-
ゆきちから ネバリゴシ コユキコムギ キタカミコムギ	(必須)	(必須)	(曇雨天続く時)

イ 穂が緑色のうちにはほ場を見回り、赤かび病にかかっているものを抜き取りましょう。

ウ 多発した場合は、刈り取りを別とし、健全粒に赤かび粒が混入しないようにしましょう。

(2) 乾燥・調製施設との連携

ア 小麦の収穫時期は梅雨と重なるため、実際の刈取り期間はかなり短くなります。また、刈取時に雨の日が続き、刈取りが遅れると穂発芽や赤かび粒も発生しやすくなります。適期内に収穫できるよう機械等の点検整備をあらかじめ行いましょう。

イ 施設を利用して乾燥・調製を行う場合は、施設側との連携を深め、計画的に収穫作業ができるよう、収穫・受け入れ体制を今から十分に整えておきましょう。

2 大豆

(1) 排水対策の実施

ア 排水不良は発芽不良を誘発するだけでなく、根粒の着生を抑制します。

イ 播種前に弾丸暗きょや振動式サブソイラ等を用いて排水対策を講じましょう。特に転作田では必ず畦畔の内側に40~50cmの溝(額縁明きょ)をつくり、ほ場水尻の排水口につなぎましょう。

(2) 耕起・碎土・整地

ア 碎土をできるだけ丁寧に行いましょう。仕上がりが不均一だと、除草剤の効果が低下したり、薬害の誘発、播種精度の低下に伴う発芽不良などの原因となります。

イ 碎土はよく乾いたほ場から行いましょう。

ウ 耕うん・碎土後（特にロータリ耕後）は土壌が水分を含みやすく、乾きにくくなります。播種スケジュールと天候の動きをみながら、柔軟に作業日程を立てましょう。

耕うん後に降雨があると土壌条件が整わず数日間播種を見合わせることもあります。オペレータが確保できれば、碎土作業を追いかけるように、播種、除草剤散布を同日に行うのが理想的です。

(3) 播種作業・・・丁寧にやって適切な栽植密度を確保しましょう。

ア 播種適期

概ね表1のとおりです。

表1 県内地帯別大豆の播種適期

早晩生	品 種 名	県北部	県中部	県南部
極早生	ユキホマレ	6/ 5 ~ 6/25	6/20 ~ 7/10	7/ 1 ~ 7/20
中生	鈴の音	5/20 ~ 6/ 5	5/15 ~ 6/10	6/ 1 ~ 6/30
中生	南部黒平	5/20 ~ 5/31	5/15 ~ 5/31	6/ 1 ~ 6/20
晩生	ナンブシロメ・スズカリ、青丸くん	5/20 ~ 5/31	5/15 ~ 6/ 5	6/ 1 ~ 6/20
晩生	コスズ	5/20 ~ 5/25	5/15 ~ 5/31	6/ 1 ~ 6/15
中生	(黒千石 暫定値)	-	-	6/ 1 ~ 6/10
晩生	(リュウホウ)	-	5/15 ~ 6/ 5	6/ 1 ~ 6/20
極晩生	(岩手みどり、ミヤギシロメ)	-	-	5/20 ~ 6/ 5

播種作業は適期内に行いましょう。ただし、圃場が滞水するような条件や播種前後に大雨が予想されるときは作業を控えましょう。

逆に乾燥しすぎた土壌でも発芽障害となるので、しばらく降雨が見込めない場合には播種深をやや深くしましょう。

イ 播種様式

畦幅はその後管理する機械に合わせて設定して下さい。品種別の栽植密度は表2のとおりです。

表2 普通大豆の品種別栽植密度

品種	栽植密度 (本 / 10a)	畦間 × 株間 (c m)
スズカリ	10,000 ~ 12,000	70 × 30 ~ 24
ナンブシロメ	"	"
青丸くん	"	"
リュウホウ	7,000 ~ 15,000	70 × 40 ~ 20
ユキホマレ	20,000 ~ 30,000	70 × 14 ~ 9 30 × 30 ~ 22

畦間を70cm、1株2本立てとした場合を示している。

「ユキホマレ」の麦後栽培では畦間30cm前後の狭畦密植とする。

「リュウホウ」は播種期により栽植密度を調整する（晩播ほど密植とする）。

ウ 播種量

播種量は種子の大きさを見てから決めましょう。多すぎても少なすぎても良いことはありません。主な品種の種子の大きさは以下の通りです。

< 参考 > 21年度播種用種子

品種	区分	百粒重 (g/100粒)	必要種子量 (kg/10a)
ナンブシロメ	中粒	25.2	3.0kg 程度
スズカリ	大粒	35.6	4.3kg 程度
スズカリ	中粒	27.6	3.3kg 程度
リュウホウ	大粒	32.1	3.9kg 程度
コスズ	小粒	10.7	1.3kg 程度
コスズ	極小粒	8.3	1.0kg 程度
すずほのか	小粒	12.1	1.4kg 程度

ナンブシロメ・スズカリの適正な栽植密度は 10a あたり 10,000 ~ 12,000 本、リュウホウの適正な栽植密度は 10a あたり 7,000 ~ 15,000 本です。

必要種子量は 10a あたり 12,000 本、出芽率 100% の場合で計算していますので、出芽率が 80% 程度となっても、10,000 本近く本数は確保できる種子量です。

エ 病虫害防除・・・種子消毒を徹底

紫斑病やタネバエ防除のため、粉衣用ノマート 25 (対象：タネバエ) やキヒゲン R-2 フロアブル (対象：紫斑病・タネバエ) 等で種子消毒をします。

「青丸くん」については褐斑粒発生防止のため、ウィルスを媒介するアブラムシを防除してください。アブラムシ類の防除は、土壌施用殺虫剤および本葉第 1 葉 ~ 2 葉展開期頃の茎葉散布を行います。種子に「クルーザーFS30」を塗沫処理した場合は、ダイシストン粒剤やジメトエート粒剤などの播種時の土壌施用を省略できます。

(4) 雑草防除・・・丁寧な砕土で除草剤の効果安定化を

ア 土壌処理剤は播種後すぐに散布できるよう作業を組みましょう。

土壌が乾いている時は、希釈水量に幅がある場合には上限量で均一に散布し、処理層の形成に努めましょう。

イ 砕土が不十分な状態で土壌処理剤を使用すると効果が低下したり、薬害の発生するおそれがあります。砕土を丁寧に行い、土壌処理剤と中耕を適切に組み合わせることが大切です。

ウ 覆土が浅すぎる場合も薬害の生じる場合があります。覆土は 2 ~ 3 cm 確保しましょう。

(5) 中耕培土・・・中耕培土で生育の安定化を

中耕培土には次の効果があり、生育を安定化するのに役立ちます。

ア 雑草防除

イ 倒伏防止

ウ 土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる

エ 発根を促進し、根群を発達させる

オ 土壌の排水を良好にする

中耕培土の時期は大豆 3 葉期が一般的ですが、雑草の発生時期に応じて (除草剤の効果がなくなってきたら)、雑草が小さいうちに行うことが重要です。

コンバイン収穫の場合、培土の高さはおおむね 1 葉節以下とし、汚損粒の発生を防ぐため、高さが一定となるようにしましょう。

春の農作業安全月間実施中!

急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

**6月1日~8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は 6 月 26 日 (金) 発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 野菜

発行日 平成21年 5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

ハウス果菜類

露地果菜類

雨よけほうれんそう

露地葉菜類

温度管理の徹底と病害虫防除に努めましょう！

活着促進のため、土壌水分と地温を確保しましょう！

ハウス管理に注意して高温や多湿を回避しましょう！

害虫の発生が多くなりそうです。早めの防除を！

1 生育概況

(1) ハウス果菜類は、半促成きゅうり、半促成トマトとも収穫が始まっていますが、例年に比べると生育はやや進んでいます。総じて生育は良好ですが、半促成きゅうりでは、うどんこ病やホモブシス根腐病の発生している圃場がみられます。

また、雨よけ施設を利用したトマト・ミニトマト、ピーマンでは、定植後の急激な温湿度変化の影響があるものの、生育は概ね順調です。高温経過によりアブラムシ類やスリップスの発生が多い圃場もみられます。

(2) 簡易雨よけトマト、露地きゅうり、露地ピーマンは育苗が進んでおり、例年と同様5月下旬から定植が始まっています。

(3) 雨よけほうれんそうの生育はほぼ順調ですが、寒暖の差が大きいこともあり生育が遅れ気味の圃場もみられます。ハウレンソウケナガコナダニによる被害が散見されています。

(4) 県中部の露地レタスの収穫はピークを迎え、県北部でも一部収穫が開始しています。キャベツの定植は県北部でも進んでいます。乾燥の影響による生育の遅れは解消しつつあります。

(5) 露地普通作型のアスパラガスの収穫ピークは過ぎ、立茎栽培では春芽の収穫が間もなく終了します。ねぎは定植後の乾燥の影響でやや緩慢な生育となっていました。回復しつつあります。

2 技術対策

(1) 圃場の排水対策とかん水

例年、排水不良が原因と思われる生育障害が見受けられます。安定生産を行うためには、定植前の明きょ(額縁明きょ含む)や補助暗きょの設置が効果的です。特に、水田転作の場合は、ほ場外からの水の浸入防止に留意し、水路等の点検整備を行うとともに、排水不良が十分改善されない場合は、高うね栽培にするなどの対策が必要です。

一方で、露地栽培であってもかん水を行うことにより生育促進、収量向上、施肥効率の改善などの効果が見られますので、かん水装置の導入を進めましょう。

(2) ハウス果菜類の管理について

主要3品目の温度管理については、前号を参照して適正な管理に努めてください。

今後、気温の上昇とともに収穫量が増加してきますので、追肥やかん水、整枝、誘引などの作業を遅れないように実施し、草勢の維持に努めます。

現在、雨よけ作型のトマト、ピーマンでは病害虫の発生は多くはありませんが、今後、アブラムシ類やスリップス、ハモグリバエ類など害虫の発生が目立ってきますので、初期防除に努めてください。

また、日照不足が続くと、灰色かび病や葉かび病が発生しやすくなります。特に、半促成作型では過繁茂になりやすい時期で、低温時にハウスを密閉すると、湿度が一層高まり、灰色かび病の発生が助長されることから、湿度を上げないように風通しを良くするとともに、予防散布を心掛けてください。

(3) 露地果菜類の定植と定植後の管理

ア きゅうり

定植時の低温や水分不足などによって活着するまでに日数を要したり、生育が停滞しやすくなります。初期生育を良好にするためには、土壤水分が適正な状態でマルチを張り、15以上の地温を確保してから定植するようにしましょう。

また、ホモブシス根腐病の発生により作付け圃場を変えた場合は、病害発生圃場の土を持ち込まないよう、農機具を水洗いするなど適切な管理に努めてください。

定植作業は晴天日を選んで行い、深植えは避け、根鉢の部分が乾いたら株元にかん水するとともに、天候不順の場合は液肥を薄めて株元に施用するなど活着を促すようにします。

斑点細菌病の予防として定植時に土壤施用剤を植穴処理します。利用する場合は、適正な処理量と土壤混和の実施により薬害等が発生しないよう注意が必要です。

定植後、本葉10枚ころまでに主枝の7節以下の雌花と側枝は早めに除去し、着果させる節位は必ず30cm以上で8～9節からとしますが、節間が短い場合や生長点が小さい場合は、着果させる節位を1～2節上げ、高さ35～40cmまでの雌花や側枝は除去し、草勢の維持を最優先に考えます。最初に利用する側枝1～2本は1節摘心、3～20節前後までの側枝は2節摘心、孫枝は1節摘心を基本とします。



細根は脱落し、根の表面には黒変病斑を形成

イ ピーマン

トンネル栽培では、最低気温が17℃を超える頃には有孔フィルムを除去します。日中はトンネル内が高温になりやすく、生育障害（葉焼け、落花）が発生しやすいので、資材を開放して換気を行います。

露地作型の定植時期は、地域の晩霜限界より5日程遅く設定し、定植1週間前までにマルチを張り地温を十分に上げ活着促進と生育促進を図ります。

整枝は主枝4本仕立てで側枝は放任とします。3本分枝は生育初期に主枝となる枝を4本残し整理するとともに、第1分枝の下部より発生したわき芽は随時かきとります。

誘引は、うねの両側に支柱を立てマイカー線などを高さ50～60cmで水平に1～2段張り、枝が垂れ下がらないようにします。

（4）雨よけほうれんそうの栽培管理

寒暖の差が大きな気象条件が予想されます。換気を十分に行い、ハウス内の気温や湿度が高くなりすぎないように注意します。べと病レース7までの抵抗性を持った品種の作付けが多くなっていますが、抵抗性を打ち破るべと病が発生する可能性もありますので、ハウスの換気は十分行うようにします。

近年、6月でも高温となることが多く、萎凋病を中心とした土壌病害が早くから発生しています。ハウス内の温度管理には十分注意するとともに、例年土壌病害の発生が多い圃場では、土壌消毒の実施を検討しましょう。

日長が長くなり、ほうれんそうが抽台しやすい条件となります。抽台しにくい品種を用いるとともに、生育が停滞しないように、播種時のかん水、温度管理をしっかりと行いましょう。

ハウレンソウケナガコナダニによる被害は全県的に見られています。防除対策として次の点を実践しましょう。

春～夏には堆肥の施用を控える。

農薬使用基準を遵守しつつ、薬液がムラなく十分かかるように丁寧に散布する。

被害の見られた株や残さは必ずハウス外に持ち出し処分する。

（5）露地葉菜類の害虫防除

ア キャベツ

平年に比べてコナガの産卵数が多く、今後の食害の増加が懸念されます。幼虫の発生を確認したら防除を行いましょう。

また、これから定植する作型では、必ず定植時に殺虫剤を施用しましょう。

ヨトウガの防除適期は例年より早く、県南部で5月下旬、県中部、県北部では6月上旬からと見込まれます。成長した幼虫は食害量が多くなりますので、適期防除に努めましょう。なお、同系統の薬剤の連用とならないように注意して防除しましょう。

イ レタス

ナモグリバエの被害が多くなる時期です。特に低温で経過すると発生が継続して、生育や収量にも影響を及ぼす可能性がありますので、早めの防除を心がけましょう。防除開始の目安は右図を参照して下さい。

【防除適期の判断方法】（図参照）

最上位葉～1枚目には被害がみられないので、2～4枚目の葉における幼虫の食入痕の有無を観察する。防除適期は幼虫の食入開始初期（図の2、4葉にみられる被害程度）である。



（6）アスパラガスの栽培管理

普通作型のアスパラガスでは、L品の割合が20%を切るようになった頃が収穫終了の目安です。立茎栽培（2期どり栽培）を行う場合には、更に早く春芽（立茎前の萌芽）の収穫を終了します。

春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前から、斑点病、茎枯病を対象とした殺菌剤を散布します。また、倒伏防止用のフラワーネットの利用や雑草防除により、通風や日当たりを良くするように心がけます。

（7）ねぎの栽培管理

定植後1ヶ月程度たってから土寄せ（土入れ）を開始し、その後生育状況を見て追肥、土寄せを行います。乾燥でやや生育が遅れている圃場もありますので、無理な土寄せは行わず、計画的な作業を心がけましょう。

ネギコガの発生がやや早めです。被害に注意し、早めの防除を心がけましょう。

春の農作業安全月間実施中！

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 花き

発行日 平成21年 5月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

りんどう 土壌水分管理、雑草防除を適正に行いましょう
小ぎく 定植、整枝などの作業を計画的に行いましょう
トルコギキョウ 生育初期の水分・温度管理を適切に行いましょう

1 りんどう

(1) 生育概要

平年に比べ草丈はやや長く、節数も多く、やや生育は進んでいます。病害虫では、ハダニ類やハモグリバエ類をはじめ発生がやや多くなっています。病害は一部で葉枯病の発生が見られています。また、急激に生育量が増大する時期となり、圃場の乾燥もあり葉先枯れ症状の発生が多く見られています。

育苗は一部でアルタナリアによる葉腐れ症状が見られましたが、おおむね順調に生育し、5月下旬から定植が始められています。

(2) 圃場管理

5月下旬から6月は茎の伸長量が大きく、また花芽の分化の時期となります。水分を多く吸収するとともに、肥料成分も土壌水分があることで吸収されるので、降雨が少ない場合は必ずかん水を行います。ただし、高温時にかん水を行うと根に障害が発生して地上部まで影響を及ぼすことがあるので、夜間または気温の低い日を選んで行いましょう。また、圃場に数日以上の間水水をためておくことも避けてください。

ほ場の乾燥は葉先枯れ症状の発生を助長します。発生しやすい圃場では、かん水の徹底と石灰資材の葉面散布で発生を抑えましょう。

圃場内や周辺の雑草はハダニ類やアザミウマ類の繁殖源となるので、放置することのないよう早めに処理します。りんどうに登録のある除草剤のバスタや、ハダニにも効果のあるハービー液剤の利用も効果的です。ただし、除草剤飛散等によりりんどうの枯れや奇形が見られることがあります。散布時にはりんどうへの飛散に注意し、登録や使用方法も確認して使用します。

(3) 施肥管理

基肥としてりんどう専用肥料を用いた場合、追肥施用時期は側芽発生期(葉の付け根に小さく腋芽が見える頃)前です。北上市付近における側芽発生期は早生種で6月上旬、晩生種で6月下旬ですので、この時期までに数回に分けて施用してください。葉色や葉の大きさ、草丈などで判断し、過剰にならないよう留意してください。

(4) 定植

天候を見ながら早めに計画的に作業を進めましょう。堆肥はできるだけ早く施用して碎土し、その後基肥を施用し床作りマルチ張りを行います。

また他に「りんどう定植2年肥料」として、2年目にも肥料成分が溶け出す緩効性肥料を使用した2年分の肥料を定植時に施用する肥料が使われ始めました。2年目施肥作業の省力化になりますが、土壌条件等によっては、2年目の春に肥料の過不足が見られる場合がありますので、生育状況をよく観察して管理してください。

定植は苗が老化しないうちに早めに実施します。定植作業は苗の萎れを防ぐため曇天、無風時が理想的ですが、晴れた日に行う場合は、トレーが高温にならないように扱い、またトレーから取り出して根が乾燥しないように植えつけ直前にトレーから取り出すように注意します。

表 りんどう定植ほ場施肥量例(10aあたり)

施肥例	肥料銘柄	資材成分量	現物施肥量
施肥例1	りんどう専用肥料	窒素 15 磷酸 16 加里 15	60~80kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	30kg
施肥例2	りんどう一本勝負	窒素 15 磷酸 10 加里 15	60~80kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	40kg
施肥例3	りんどう定植2年肥料	窒素 15 磷酸 10 加里 10	180~150kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	40kg~0kg

苗にジベレリン処理を行った場合は、処理後直ちに定植してください。また定植後は薄めの液肥、または水をかん注し、床土と苗をなじませます。定植後は活着や初期生育を促進するため乾燥しないように管理します。

(5) 病虫害防除

ア 葉枯病

現在のところ発生は少ないですが、薬剤散布で生育初期からの予防を徹底しましょう。下葉に感染していたものが降雨により順次上位葉に拡大するので、定期的な薬剤散布による拡大防止に努めてください。

イ リンドウホソハマキ

今年は春の高めの気温経過により羽化が早まり、防除適期は県中部以南では6月第1半旬~6月第2半旬、冷涼地では6月第3半旬~第4半旬と見込まれます。該当時期の防除の徹底とともに、潜葉痕や茎頂部の食害が見られたならば防除を徹底します。また、発生状況は病虫害防除所の「病虫害防除速報」等を参考にしてください。

ウ ハダニ類

ハウス促成栽培では発生が多く見られています。加えて露地でも既に多発している圃場が見られます。ハダニは高温・乾燥条件で多発します。下位葉裏の寄生状況を観察し、発生を見たら早めに薬剤散布を行って防除してください。増殖源となる圃場周辺の雑草防除も併せて行います。ダニ剤の使用にあたっては、同一系統剤の年1回使用を徹底して、抵抗性の生じないよう十分留意してください。散布時は、十分な散布量で、葉の裏側を洗うように散布すると効果的です。

2 小ぎく

(1) 生育概況

8月咲き品種の定植は、ほぼ順調に終了しました。一部圃場で乾燥により生育の停滞が見られましたが、概ね順調に生育しています。病害虫ではハダニ類、ハモグリバエ類の発生がやや多く見られています。

9月咲き品種の育苗はおおむね順調で、一部で定植が始まっています。

(2) 定植後の管理

初期生育が不足しないようかん水を励行します。追肥は一般には不要ですが、伸びが悪い場合、葉色が薄い場合などは少量の追肥（液肥）も効果的です。

摘心後に伸びた側枝は必ず3～4本に整理して品質確保を図ります。この時強い枝から残すのではなく、揃った枝を残すようにします。仕立て本数は品種特性に応じて変更します。

無マルチ栽培の場合は、土寄せを行い生育の促進を図ります。側枝が10cm程度伸びた頃と、整枝を行ったあとの2回が実施時期の目安です。ただし、土寄せにより開花が遅れる場合もあるので留意してください。

(3) 病害虫防除

ア 害虫

アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、ハモグリバエ類などが問題となります。発生状況の観察に努め、早期防除に努めます。併せて増殖源となる雑草防除も行います。

イ 白さび病

キク栽培で、特に重要な病害です。定期的な薬剤散布で予防します。新葉の展開に合わせて5日間隔で散布することが基本ですが、降雨が続く場合などは散布間隔を狭めます。薬剤の選定は各地域の防除暦等を参考にしてください。



ウ ウイルス病

ミカンキイロアザミウマ等が媒介する TSWV (トマト黄化えそウイルス) の感染による「キクえそ病」が県内でも確認されていますので、疑いがある場合は普及センターに相談してください。ウイルス以外の要因で類似の症状が発生する場合もあるので、慎重に判断してください。罹病株の抜き捨て、アザミウマ類の防除を徹底し被害拡大を防止しましょう。

キクに発生するわい化病 (キクわい化ウイルス) 、キクえそ病 (TSWV) に感染した株は回復することがありません。圃場に残すことで他への伝染源となるので、見つけ次第抜き捨てることを徹底してください。

(4) 9月咲き品種

定植期は5月下旬～6月上旬となりますが、丈の伸びやすい品種は遅めに定植するなど品種特性に応じた定植期としてください。県北地域では品種によっては、慣行定植日より10～30日遅らせることで過剰な伸張の抑制と草姿の改善が図られる試験成果が出されていますので、参考にしてください。

現在育苗中のものは高温による障害に注意してください。

3 その他

(1) トルコギキョウ

5月は種で夜冷短日育苗と定植後30日間の短日処理を組み合わせることでロゼット化や短茎開花を回避し、10～11月の出荷が可能となります。本県では8～9月出荷作型に集中する傾向があるので、新たな作型の導入を進め、有利販売を図りましょう。

夏切り作型の定植後の栽培管理は、曇天が続く場合は施設内の遮光資材や内部カーテンを開け、日射量を確保するよう管理しましょう。日照不足は品質低下や場合によってはロゼット化の原因となります。また、施設内の温度にも敏感に反応するので、適温管理に努めましょう。

(2) ユリ類

抑制作型では遮光等により施設内の温度低下を図りますが、品質低下を防ぐために日照をできるだけ確保することと、土壌水分を維持することが求められます。温度上昇を防ぐ遮光資材は、遮光率の高い資材の使用を避け日照確保に努めます。施設の換気に努め、茎の軟弱化を防ぎます。一方で天候が不順な場合は日照を確保するよう遮光資材を開放しましょう。

(3) アルストロメリア

葉芽や枯れ茎は適宜間引きますが、間引きが強すぎるとその後発生する芽が細くなるので注意します。高温期の過剰なかん水や施肥は根の障害を招くことがあるので注意します。かん水を少なくしたい品種もあるので、品種特性に応じた管理とします。

春の農作業安全月間実施中！

急ぐより 家族の笑顔を大切に想う心で ゆとりの仕事

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月26日(金)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第3号

果樹

発行日 平成21年 5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

りんごの開花は平年より早まりました！！結実は総じて良好なので、摘果作業を急ぎましょう。

ぶどうの生育も平年より早まっており、開花期も早まると思われます。開花期前後の管理を徹底して、結実確保に努めましょう！！

りんご

1 生育概況

県内の定点観測調査結果(表1)によると、4月中旬の高温による生育の進みを受け、開花期は平年より3~4日程度早まりました。

開花期間中は総じて好天に恵まれ、訪花昆虫の活動も活発であったと考えられます。岩手県農業研究センターの調査結果も結実率は非常に高く(表2)、全県的にも平年並以上の結実量は確保されたと思われます。

なお、4月中~5月中旬にかけ、散発的ではありますが県内各地で降霜が確認され、花器の萎縮、めしべやおしべの褐変、枯死等の凍霜害の発生が見られています。今後、さび果や奇形果の発生も懸念されますので、被害の様相を確認の上、摘果作業を進めてください。

表1 定点観測地点の「ふじ」の開花状況

市町村	地区	気象 特性 区分	開花始(月/日)			満開期(月/日)			落花期(月/日)			開花期の平年・前年差(±日)			
												開花始		満開期	
			本年 (H21)	平年	前年 (H20)	本年 (H21)	平年	前年 (H20)	本年 (H21)	平年	前年 (H20)	平年差	前年差	平年差	前年差
岩手町	一方井		5/7	5/11	5/4	5/9	5/14	5/5	5/13	5/19	5/11	-4	3	-5	4
盛岡市	三ツ割		5/5	5/8	5/1	5/7	5/12	5/3	5/13	5/16	5/6	-3	4	-5	4
紫波町	長岡		5/3	5/7	4/30	5/6	5/10	5/3	5/13	5/15	5/6	-4	3	-4	3
花巻市	中根子		5/3	5/6	4/30	5/6	5/10	5/2	5/10	5/14	5/6	-3	3	-4	4
北上市	立花		5/3	5/6	4/30	5/6	5/9	5/2	5/10	5/14	5/5	-3	3	-3	4
奥州市	前沢区稲置		5/1	5/3	4/29	5/3	5/6	5/2	5/8	5/11	5/5	-2	2	-3	1
	江刺区伊手		5/5	5/8	5/2	5/8	5/13	5/5	5/12	5/17	5/9	-3	3	-5	3
一関市	花巻町金沢		5/2	5/6	5/1	5/5	5/9	5/3	5/11	5/13	5/7	-4	1	-4	2
	大東町大原		5/4	5/7	5/2	5/7	5/11	5/4	5/11	5/16	5/8	-3	2	-4	3
陸前高田市	米崎		5/1	5/4	5/1	5/5	5/9	5/4	5/9	5/14	5/8	-3	0	-4	1
宮古市	崎山		5/4	5/8	5/3	5/6	5/12	5/6	5/12	5/17	5/15	-4	1	-6	0
岩泉町	乙茂		5/4	5/7	5/3	5/7	5/12	5/7	5/11	5/17	5/14	-3	1	-5	0
洋野町	大野		5/8	5/12	5/7	5/12	5/16	5/16	5/18	5/21	5/21	-4	1	-4	-4
軽米町	高家		5/5	5/10	5/5	5/10	5/14	5/8	5/14	5/19	5/13	-5	0	-4	2
二戸市	釜沢		5/5	5/8	5/2	5/9	5/12	5/5	5/13	5/16	5/8	-3	3	-3	4
県平均(参考)			5/4	5/7	5/2	5/7	5/11	5/5	5/11	5/15	5/9	-3.4	2.0	-4.2	2.1

表2 農業研究センターの結実率調査結果

品種 /台木	調査 年次	結実率(%)		
		果そう	中心果	全果
ふじ /M.9	本年	100.0	98.7	87.7
	前年	100.0	90.0	76.3
	平年	94.3	77.7	62.6
ジョナゴールド /M.26	本年	100.0	99.3	91.6
	前年	100.0	93.3	77.6
	平年	96.8	82.6	64.2
つがる /M.9A	本年	100.0	98.7	93.8
	前年	100.0	90.6	84.7
	平年	96.9	87.7	75.0

2 摘果

(1) 本年は全般に結実数が多く、摘果作業が遅れると小玉果となる可能性が高くなる他、隔年結果を招く(翌年の花芽減少)恐れがあります。特に翌年の花芽形成にはあら摘果を早期に進めることが重要(表3)ですので、各自の品種構成や労力等に応じた作業スケジュールをたて、計画的に摘果作業を進めましょう。

表3 摘果時期が「ふじ」の当年及び翌年の果実品質、花芽率に及ぼす影響(長野果樹試 平12~13年)

摘果時期	当年(平12)			翌年(平13)			
	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)	花芽率(%)	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)
あら7 + 仕60	23.9	348	16.6	75	39.6	327	15.2
あら17 + 仕60	24.0	311	16.1	59	30.5	305	15.3
あら28 + 仕60	22.4	309	16.0	44	24.1	303	15.3
あら37 + 仕60	24.0	311	16.1	28	19.9	318	15.6
あら51 + 仕60	24.8	269	16.1	20	12.3	299	15.3
仕60	24.9	290	16.4	25	16.6	329	14.9
仕74	23.7	281	16.5	4	3.3	255	14.7
仕94	21.2	280	16.7	2	1.1	297	14.7
対照区(無摘果)	53.4	189	13.8	2	2.6	310	14.8

摘果時期: あら摘果 + 仕上げ摘果の満開後日数を示す。仕のみは摘果を1回で実施した。

あら摘果: 頂芽の側果およびえき芽果の全果を摘み取った。

仕上げ摘果: 葉果比50~60の基準で摘果した。

翌年(平13)の摘果: 全区ともあら摘果満開30日後、仕上げ摘果満開60日後に実施した。

(2) 摘果の留意点

ア 最初に、1果そう1果とするあら摘果を実施します。その際、不要な果そうの果実を積極的に除いていきます。その後、果実肥大や品質を確認しながら仕上げ摘果を進めます。

イ 摘果終了の目安は表4の通りですが、平年より開花期が早いことから、落花30日後は6月中旬頃になります。作業を計画的に進め、早期摘果を心がけてください。

ウ 三角実や扁平果など、果形の悪い果実、病虫害果、傷果を中心に摘果していきます。

エ 果実は横の発育が良く、果硬が太くて長い正形果を残します。

オ 果台が極端に長いものや短いものは、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します。

表4 品種別作業手順

項目	品種	摘果完了時期
早期に行う品種	ふじ、つがる、王林、きおう、さんさ	落花25日後
後期に行う品種	ジョナゴールド、紅玉	落花30~35日後

(3) 凍霜害発生園地における摘果の要点

凍霜害の発生した園地では、さび果、奇形果などの障害果の発生が懸念されます。荒摘果を順次進め、仕上げ摘果でやや多めに果実を残しておき、障害の有無を確認しながら摘果を進めていきます。

また、中心果が被害を受けた場合は、果形、肥大が良好で障害が少ない側果を利用します。

3 病害虫防除

(1) 病害虫防除所の発生現況情報(平成21年5月27日発行)によると、全般に問題となる病害虫の発生は見られていませんが、腐らん病の発生している園地が目立っています。

腐らん病の発生園地では、病患部を発見しだい、切除、削り取るなど処置を施します。

(2) 斑点落葉病や褐斑病は、これから梅雨期に入り、感染が増加する時期ですので、天気予報等を参考に降雨前の予防散布に努めましょう。

ハダニ類は園地内を良く観察し、新梢葉で寄生葉率が30%に達したら、速やかに防除を行ってください。

また、キンモンホソガ、モモシクイガの発生時期が早まる見込みですので、病害虫防除所が発表する情報を参考に、適期防除に努めましょう。

(3) 交信かく乱剤を導入する園地では、6月上旬までに剤を設置します。その際は、必ずフェロモントラップを設置して、随時交信かく乱効果を確認しましょう。

ぶどう

1 生育概況(表5)

紫波町赤沢の定点観測によると、「キャンベル」の発芽は4月24日と平年より9日早く、展葉は5月3日と平年より7日早まっています。これは4月中旬の高温の影響と、凍霜害防止のための雨よけ被覆によるものと思われますが、5月25日の生育状況からも生育は進んでおり、開花期も平年より早まると考えられます。

これから開花期にかけては管理作業が重なり忙しくなりますので、生育が進んでいることを考慮し計画的に作業を進めましょう。

表5 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(定点調査地点:紫波町赤沢)

調査年次	生態(月/日)					5月25日		
	発芽期	展葉期	開花期			新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)
			開花始	満開期	落花期			
本年(H21)	4/24	5/3				46.7	7.8	8.0
平年	5/3	5/10	6/15	6/19	6/22	24.3	4.8	4.4
前年(H20)	4/30	5/8	6/10	6/12	6/19	32.1	5.7	6.3
平年差・比	-9	-7				192%	163%	182%
前年差・比	-6	-5				145%	137%	127%

2 管理の要点

(1) 新梢の誘引

展葉7~8枚頃に2回目の芽かき作業に合わせて良く伸びた新梢から誘引します。

(2) 花穂の整理

ア 「キャンベル」, 「ノースレッド」

開花前に弱い枝の花穂は除き、強い枝には2穂を着生させ、全体で目標着房数の1~2割増の着生数とします。

イ 「紅伊豆」, 「ハニーブラック」, 「安芸クイーン」

最終房数は1新梢1房とします。摘房の時期は、新梢の強弱を判断して強勢のものほど摘房を遅らせ、着色期を目途に最終着房数とします。

(3) 花振るい防止

ア 「キャンベル」は、強めの新梢を開花7～4日前に房先5～7枚残して摘心します。

イ 大粒種で花振るいが強い品種や園地では、メピコートクロリド液剤（フラスター液剤）を使用することにより花振るいを軽減できます。使用する際は、登録内容を十分に確認し、使用時期や希釈倍率に注意して使用してください。

(4) 花穂の整形（図1）

ア 「キャンベル」では、摘心作業と同時に花穂の副穂を切除します。また、主穂が長すぎる場合は、下端を切りつめる（尻止め）などします。

イ 「紅伊豆」などの大粒種は、1～2輪開花し始めた頃から先端部を切りつめます。「紅伊豆」では、副穂を切除し、主穂の基部から4～6段を切除して10～13段程度を残すように整形します。

ウ 「サニールージュ」では、開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂を除去し（長い花穂は上部支梗を1～3段除去）、花穂の長さを概ね7～8cmとします。なお、花穂の先端は切りつめません。

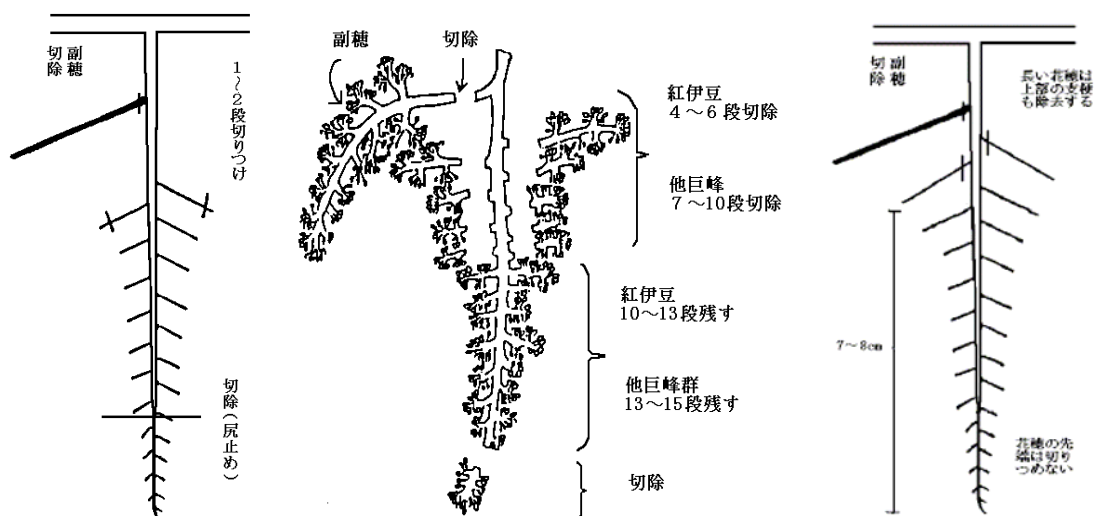


図1 花穂の整形（左：キャンベル 中：紅伊豆等大粒種 右：サニールージュ）

(5) ジベレリン処理

「デラウエア」や「アリースチューベン」は開花前後の2回、ジベレリン処理することで、無核で果粒の肥大した早熟の果房が得られます。

「安芸クイーン」などの「巨峰系4倍体品種」は無核化とともに果粒肥大促進を目的として利用されますが、樹勢が強く花振るいが多い場合、ジベレリン処理により着粒数を増加させることができます。

なお、ジベレリンはグループ毎に目的、使用方法が異なる場合があるので、登録内容を確認して利用ください。

3 病害虫防除

(1) ぶどうの開花期前後は、灰色かび病の発生時期です。生育ステージに合わせて、適期防除に努めましょう。なお、灰色かび病等の薬剤抵抗性回避のため、同一系統薬剤の連用はしないよう注意してください。

(2) 露地栽培で有袋栽培をする場合、防除後、薬剤が乾いたら速やかに袋かけをしましょう。

春の農作業安全月間実施中！

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月26日（金）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 平成21年 5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 019-688-5525）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

牧草

**増収を期待した遅刈りは、栄養価や刈取り後の生育に悪影響を及ぼします。
適期刈り取りに努めましょう。また、調製方式に応じた水分含量となるように努めましょう。**

1. 牧草の生育と作業の状況

消雪が早く、4月上旬から中旬にかけて気温も高く推移したことからオーチャードグラスの出穂がやや平年よりも早まっています。また、1番草の刈り取り作業を開始した圃場も見られます。

2. 牧草の刈り取り適期

1番草は年間を通じて、質・量ともに年間を通じて最高・最大の収穫を期待できるため、この時期の収穫作業は重要です。

そこで注意したいのが刈取り時期です。

図は、オーチャードグラスにおける1番草の栄養価の推移を示したものです。

1番草では生育が進むと草丈が高くなり、これに伴って収量が増加しますが、繊維含量も増加します。反対に、出穂始めから葉部割合、蛋白質含量は急速に減少し、栄養価が低下します。また、消化率も低下し、嗜好性も悪くなります。

1番草の刈取りは収量を確保しつつ栄養価が高い時期、すなわち『出穂始めから出穂期』に行うことが適切です。

なお、早すぎる収穫では収量が十分確保できないうえに、刈取り後の再生に悪影響を及ぼすため、注意が必要です。

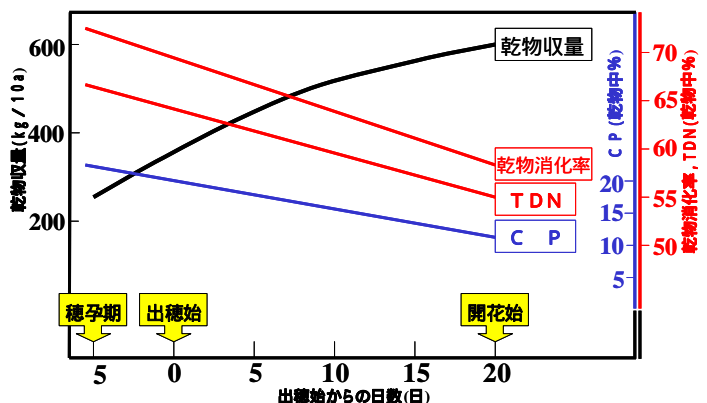


図 1番草収量・栄養価の時的推移(オーチャードグラス)

3. 牧草の刈取り高さ

牧草の刈取り高さは、再生力の強弱を決定する重要な要因です。

牧草は極端な低刈りでは、生長点が切除されるほか、同化作用を営む緑葉が刈り取られるとともに、貯蔵器官の一部が取り去られ貯蔵養分総量が少なくなるため、再生が悪くなります。

一方、高刈りの場合は、牧草の再生の面からは好都合となりますが、採草の観点からは収量が減少し、刈り残しによる損失が増大します。したがって、牧草の刈取り高さは、牧草の再生力と収量の両面を考慮して、地際から10cm程度が適当となります。

4. 乾草の調製

高水分での梱包はカビの発生を増長し、品質低下を招きます。また、発熱の危険性が高いので、自然発火・くん炭化には特に注意が必要です。

2～3日天気が続くと予想される快晴の日に刈り取り、水分含量を一気に20%以下にすると、牧草の呼吸が止まって、糖、タンパク質、アミノ酸の損失が少なくなり、良質の乾草ができます。

5. 草サイレージの調製

(1) 適期刈取りにより良質材料を調製します。出穂期の牧草は糖分含有量が多く、乳酸発酵しやすいためです。また、土砂の混入は変敗の原因となりますので気をつけましょう。

(2) サイレージ調製にあたっては、原料草を予乾して水分含量を低くして調製するのが基本です。予乾せずにサイレージを作ると、排汁が多くなって養分が失われ、更には不良発酵（酪酸発酵）の原因となります。

ロールベールサイレージは水分を50～60%弱に、タワーサイロやバンカーサイロ等では水分を65～70%に調整しましょう。

6. 刈取り後の追肥

2番草の生育を促すため、刈取り後直ちに追肥を行いましょう。

施肥量は、10a当たり成分量で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgとします。

春の農作業安全月間実施中！

急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月26日（金）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 その他

農薬安全使用・飛散防止対策

発行日 平成21年 5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

農薬の使用基準を守りましょう 農薬の飛散防止に努めましょう

6月1日～8月31日は、本県の農薬危被害防止運動期間です。これから農薬を使用する場面が多くなります。農薬の使用基準を守り、ほ場周辺の環境や農産物への飛散防止対策に取り組み、安全・安心な農産物生産に努めましょう。

1 農薬の安全適正使用

農薬を安全かつ適正に使用するために、農薬の使用者には以下の遵守義務があります。

(1) 無登録農薬の使用禁止

農薬(特定防除資材を除く)は、農林水産省の登録があるものを使用する。

(2) 販売が禁止されている農薬の使用禁止

平成15年3月5日制定 21剤(水銀剤、PCNB、DDT等)

(3) 使用基準の遵守。

**適用作物、 単位面積当たりの使用量や希釈倍数、 使用時期(収穫前日数等)、
有効成分の種類ごとの総使用回数**

これらの内容は、**農薬のラベルに明示**されていますので、使用する際はしっかりと確認してください。また、農薬を使用したあとは、使用実績をきちんと記録して下さい。

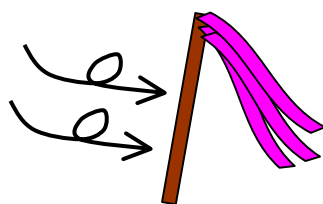
2 農薬の飛散防止対策

食品衛生法では、農産物等の食品中に残留する農薬等(農薬、飼料添加物、動物医薬品)が、残留基準を超えて販売されることを禁止しています。平成18年5月29日以降、原則全ての食用農作物に対して799農薬等の残留基準が設定されました。

農薬については、前記の使用基準を守り、適正に使用されていれば、残留基準を超えることはありません。しかし、強風下での農薬散布や使用後の器具洗浄不備などによって、予期せぬ農薬の飛散、残留が生じることが考えられますので、これまで以上に注意を払う必要があります。

(1) 地上防除における農薬のドリフト防止のポイント

ア 風が強い時の散布は避ける。



現地事例

ビニルひもなどを棒につけ、簡易的な吹き流しを作成。
散布可否の判断指標に活用している。

イ 散布位置が作物から離れると、風の影響を受けドリフトしやすい。できるだけ作物に近い位置で散布する。

ウ 圃場の端での散布は、近隣の圃場へドリフトしないよう障壁(シート、ネット、障壁作物等)を設置する、緩衝地帯を設ける、境界近くでは散布を行わない等の工夫をする。



なし園での飛散防止ネットの設置事例

- ・なし平棚に設置
- ・上部の飛散防止ネットは、巻き上げできるようにしている。
- ・右のネットは散防紗、左が0.4mm目合いネット
- ・きゅうり圃場で、防虫ネットの応用事例もある。

エ 散布圧力を上げすぎない(薬液粒子が細かくなり、ドリフトしやすくなる)。SSでは、場合によって風量を下げる。

オ 散布ノズルは適切なものを使用する(ドリフトレスノズルの利用等)。



ドリフトレスノズルと慣行ノズルの違い

- ・左奥が慣行: 散布液が霧状になっている。
- ・手前がドリフトレスノズル: 散布液の粒子が大きめで、周囲へのドリフトが少ない。

ただし、風が強い場合は、ドリフトレスノズルでも飛散が生じるので注意する。

カ ドリフトしにくい剤型の農薬を使用する。

剤型によるドリフトしやすさ

…1.粉剤 > 2.液剤 > 3.微粒剤 > 4.粒剤

キ 散布機器によって、ドリフトの発生状況が異なります。ドリフトしやすい散布機を使用する場合は、十分に注意してください。

散布機器によるドリフトのしやすさ

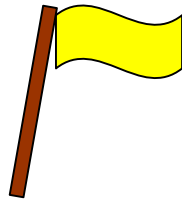
…1.スピードスプレーヤ > 2.ブームスプレーヤ > 3.動噴による手散布

ク より多くの適用作物があり、収穫日近くまで使用できる農薬を選定する。

(2) 近隣の作物栽培者との連携

ア 散布日、薬剤等お互い連絡し合うなど情報交換を密にする。

イ 近隣の散布計画（薬剤、散布日等）を確認し、収穫を早めたり、防除の間べたがけ資材で覆うなどの工夫をする。



現地での事例

収穫間近（収穫7日前等）の作物がある園地に目印（看板、黄旗など）を設置して注意を喚起する。

(3) 散布器具等の洗浄

タンク内やホースなどに残液があると、次回使用する際に目的以外の作物に散布される危険があります。使用后、速やかに洗浄することが大切です。また、3回以上すすぎをすると良いです。

(4) 土壌残留対策

以前に使用した農薬が土中に残留し、農作物に残留する事例も見られています。以下の点に注意してください。

ア 以前にドリノ剤（ディルドリン、アルドリン、エンドリン）を使用した圃場では、ウリ科野菜（きゅうり等）の作付けは避けます。

イ 箱施用剤（特に水稻）を使用する場合は、後作に影響のない場所（ほ場の外など）で使用するか、薬剤がこぼれないように対策をします。

農薬の飛散防止対策には、様々な方法がありますが、**一番大事なことは基本を忠実に守る**ことです。また、ドリフトが心配される時は、早めに農協、普及センター等関係機関に連絡、相談してください。

春の農作業安全月間実施中！

急ぐより 家族の笑顔を大切に想う心で ゆとりの仕事

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月26日（金）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。